

かおり

vol.
66
May
2022



アイユウの苑 ゆめタウン

労働安全衛生方針

職員の安全・安心が
顧客満足・顧客感動をつくる
地域の福祉を支えるために
法人理念を実現するために
その担い手である職員が
安全・安心で働き続けることができる
職場をつくります。

品質方針

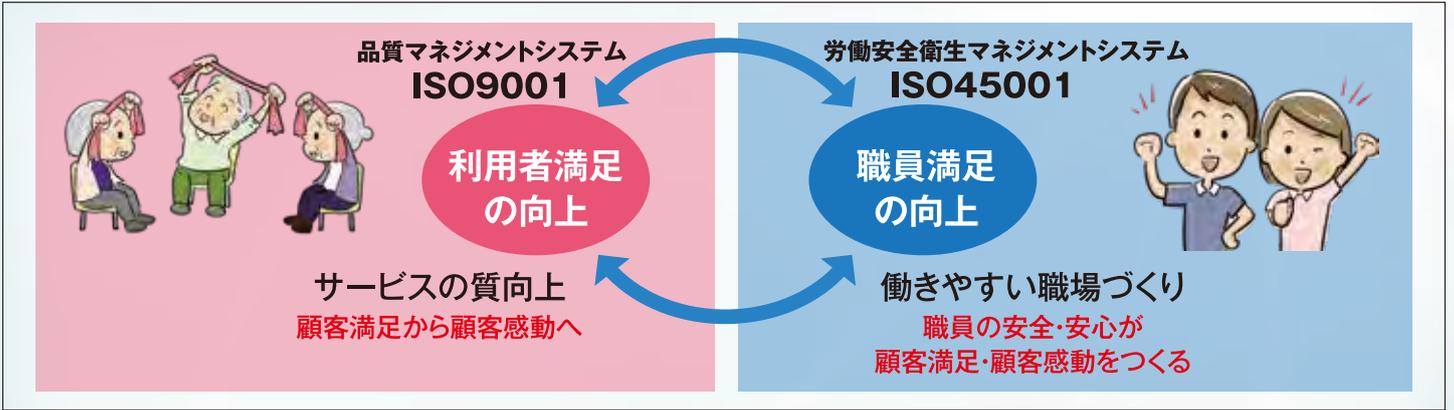
顧客満足から顧客感動へ
「やさしさ」「真心」「思いやり」で
満ち溢れた心のかおりのする
サービスを目指します。

理念

私たちは地域の皆様の
幸福（しあわせ）に
貢献できる社会福祉法人を
目指します。

今回の内容

労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001の認証取得を実現	02・03
ミニ福祉情報 推進される福祉施設職員の処遇改善!	04
各拠点からのお知らせ さこ拠点 (彦島迫町)	04
たのくび拠点 (彦島田の首町)・しおはま拠点 (彦島塩浜町)	05
ゆめタウン拠点 (長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点 (彦島迫町)	06
松美会の人財 私たちが働いています!	07
自宅のできる介護食のススメ⑧	08



すべての事業所で「危険源」を洗い出す

ISO45001では、職員の安全・安心を阻害している要因を「危険源」として洗い出し、対応策を講じることが求められています。松美会のすべての事業所において明確化された危険源は44あり、のべ196にもなりました。たとえば、入浴介助中の熱中症リスク、相談業務中の精神的ストレス、送迎業務中の交通事故リスク、コロナ禍における感染リスクなどその内容はさまざまです。これらの危

険源に対して、労働安全衛生リスクの管理として、その起こりやすさと影響規模を踏まえ、優先順位を付けて対応しています。事業所ごとに、職員1人ひとりが自分たちの働く職場に潜む危険源を考え、把握し、それぞれの危険源に対して具体的な対応策をたて、取り組み、その結果を評価するという一連の流れは、職員1人ひとりの安全衛生意識の向上につながっていると考えています。

社会福祉施設における労働災害の増加は大きな課題

国において、さまざまな業種で減少傾向にある労働災害について、小売業、介護施設を中心に増加（社会福祉施設では、2020年の死傷災害（休業4日以上）の労働災害）が前年比で3割以上増加し、直ちに改善が必要な危機的状況となっているとしており、事故の型別では「転倒」および腰痛等の「動作の反動・無理な動作」など、職場における労働者の作業行動を起因とするものが増加している状況から、これらの行動災害を予防するための取り組みの強化が喫緊の課題とされています。これらのことから今後、社会福祉

施設に向けて労働災害防止等が強く求められてくると思われます。当法人における労働災害の実態は、2010年～2021年について、合計24件（1～4件/年）であり、年間平均2件の労働災害が発生していました。24件の労災内容から、腰痛は0件、転倒は6件となっていました。ノーリフティングケアの更なる推進で腰痛を予防するとともに、ISO45001による労働安全衛生マネジメントシステムの維持、継続的改善を推進することで、すべての事業所において「労働災害ゼロ」を目指していきます。

松美会の労働安全衛生マネジメントシステム



労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001の認証取得を実現

すべての介護サービス事業でISO45001認証取得 (ISO9001の取り組みが基盤)



社会福祉法人松美会は、2022年2月労働安全衛生マネジメントシステムの国際標準規格ISO45001の認証(審査登録)取得をしました。社会福祉法人として、特別養護老人ホームとして、在宅介護サービスの複合供給体として、わが国で初めてではないかと思います。(※ISO45001は、働く人の労働に関する負傷や疾病の防止、安全で健康的な職場環境(=労働安全衛生)を提供するための仕組みづくりのガイドラインであり、労働安全衛生マネジメントシステムに関する国際標準規格。)

当法人は、1999年10月品質マネジメントシステムの国際標準規格ISO9001(当時は品質保証システムの国際標準規格)の審査登録(認証取得)を社会福祉法人として、特別養護老人ホームとして、在宅介護サービスの複合供給体として、わが国で初めて実現し、これまでマネジメントシステムの維持・拡大・継続的改善に努めてきました。ISO9001の認証を取得してから、23年間にわたり年1回の定期維持審査と3年ごとの更新審査を受審し続けており、これまで7回の更新をしてきました。さらに、新たな介護サービスを実施するたびごとに拡大審査を受審してきました。

私たちは、これらの実践とおして、サービスの質の維持・向上は、職員1人ひとりの力量や頑張りや担保されるのではなく、組織として、“仕組み”で担保するものであることを知っています。あらゆる場面でPDCA(Plan計画-Do実行-Check評価-Act改善)サイクルをつくり、回すことが組織の文化になっていると感じます。

ご利用者様のサービス満足度も、職員の仕事満足度も、どちらも高める

私たちは、これまでISO9001をツールとして、「顧客満足から顧客感動へ」サービスの質を維持し、継続的に改善することで「如何にご利用者様に満足していただけるか」に全力で取り組んできました。

ご利用者様に満足していただけるサービスを提供するためには、質が高いと実感していただけるサービス提供をしなければなりません。より良いサービス提供をするためには、サービス提供する職員の仕事満足度が高いことが求められます。職員の仕事満足度が高いことがより良いサービス提供を可能とし、その結果としてご利用者様のサービスに対する満足度が高まると考えています。

これらのことから、私たちは、「職員を大切にする法人」として、職員が働きやすい・働きがいのある職場づくりに尽力しており、職員仕事満足度調査・共通職員意識調査を年1回実施し、職員の仕事満足度が高まるよう継続的な改善に取り組んでいます。

また、平成31年より「地域密着型介護老人福祉施設アイユウの苑おはま」が下関市のノーリフティングケアモデル事業所と選定されたことを機に、特別養護老人ホームアイユウの苑、アイユウの苑ゆめタウンにおいてノーリフティングケア(持ちあげない、引きず

らない、抱え上げないケア)の取り組みを始めました。取り組み開始から3年が経ち、ノーリフティングケアが定着し、職員の身体的負担軽減の効果も実感できるようになってきました。

生産年齢人口の減少は、ますます介護人材の確保を難しくします。今いる職員のみなさんが歳を重ねても安全に・安心して働き続けることができる職場づくりが求められていると考えます。

私たちがこれまでご利用者様に向けてきた目を、職員にも向けることで、「職員の仕事満足度を高め、職員の安全・安心を確保することをカタチにしたい」「職員が安全に安心して働き続けることができる職場環境を“仕組み”としてつくりたい」との思いから労働安全衛生マネジメントシステムISO45001の認証取得を実現し、システムの維持・継続的改善を進めています。「職員の安全・安心が顧客満足・顧客感動をつくる」職員が安全に・安心して働き続けることができることが、サービスの質を維持し、サービスの質を高めていくことにつながり、結果としてご利用者様の満足度向上につながると考えています。

各拠点からのお知らせ

さこ

拠点
(彦島迫町)

ご存知ですか？ いろいろな在宅サービス

年齢を重ねるにつれ、これまで簡単にできていたことも時間がかかってしまい、身の回りのことも思うようにできなくなりましたというお声をよく耳にします。当事業所では、介護保険の相談はもちろんですが、公的な介護保険サービスだけではルールが厳しくてちょっと不安…でも子供にもあまり迷惑をかけたくない…など、様々なご相談を承っています。一人暮らしなので毎日炊事をする気力も体力もなくて…でも身体のためには、食べることには気をつけたいですねとお弁当の配達を希望される方も多くなりました。他には介護タクシーはどこに頼めばいいの？家事(介護保険が利用できない庭の手入れ・散歩の付き添いや荷物のお届けなど)代行サービスの依頼相談などもあります。高齢者の方が自宅で、安心して生活ができるにはどんなお手伝いが必要？を一緒に考えていきたいと思っています。高齢になったからこそ、お互いに支え合い、見守りができる地域づくりが出来ればと改めて感じます。介護保険外のインフォーマルサービス(配食サービスや介護タクシー、出張理美容など)も有効に活用してみませんか？

アイユウの苑
ケアマネジメントセンター
管理者 清水朱美



三二福祉情報

推進される福祉施設職員の 処遇改善！

岸田内閣が昨年10月4日に発足しました。エッセンシャルワーカーの処遇改善が公約として示されたことは記憶に新しいところです。看護・介護・保育などの現場で働いている方々の収入を増やしていくための公的価格の在り方の抜本的見直しを検討するために、全世代型社会保障構築会議の下に公的価格評価検討委員会が設置されるとともに、「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策(令和3年11月19日閣議決定)」として令和4年2月から収入の3%程度(月額9千円)引き上げるための措置が実施されています。

9,000円は、施設事業所へ配分に関する予算を国が積算する目安であり、介護職員1人あたり9,000円アップするものではありません。また、このたびの補助金は、介護職員以外の職員へも法人の裁量で配分が可能となっており、当法人においては、介護職員6,000円、その他の職員5,000円が2月の給与から支給されています。

これまでも介護職員の処遇改善については、介護職員処遇改善加算、特定処遇改善加算が創設され、介護職員の処遇改善が少しずつではありますが進んでいます。

しかしながら、これらの処遇改善加算は、施設事業所に入ってきた収入の全額を処遇改善額として支出する仕組みであり、事業所の収入が増えるわけではありません。厳しい介護報酬改定が続く現状においては事業そのものの安定性が確保できません。

日本介護クラフトユニオンが公表した2021年の組合員の賃金実態調査結果から、月給制で働く介護職員の平均年収は363万1千円で、前回2018年調査時の350万1千円に比べて13万円上昇、約461万円の全産業平均との格差は96万円に縮まったとされています。入所系介護職員の平均年収は353万9千円、2019年10月より導入された介護職員等処遇改善加算の効果が表れていますが、職種によって差があること、依然として7割近い人が賃金水準に不満を持っている状況とされています。松美会の入所系介護職員の平均年収は352万9千円であり、この調査結果とほぼ同じ金額となりました。

	年 収
全産業平均	4,610,000円
入所系介護職員 ¹⁾	3,539,000円 ¹⁾ (152,000円)
松美会の入所系介護職員 ²⁾	3,529,151円 ²⁾

•日本介護クラフトユニオン2021賃金実態調査結果 月額賃金。年収()は18年調査比増減額

•松美会の特別養護老人ホーム・地域密着型介護老人福祉施設・グループホームに勤務する介護職員(すべての正職員)88名の平均(令和3年1月~12月)

1) 2) には夜勤手当は含まない

職員の処遇改善が進むことで、介護のしごとの魅力を感じていただける人が増え、人材確保につながることを期待できます。あわせてそれぞれの介護サービスにおいて安定的経営が可能となる収支差額が確保できるだけの介護報酬単価の設定が望まれます。少なくとも、現在、包括方式(積算の根拠がなく、おむつ代や洗濯代や医療機関受診送迎などすべてコミコミ)となっている介護報酬を、保育の運営費と同じ積み上げ式の報酬設計への変更を強く願います。

法人事務局
事務局長 辻中浩司



“今”“ここ”に本気

全職員で話し合いを持ちました。「自分の親が認知症の進行から食事が認識できなくなったら、どのように支援して欲しいか。」当然、人は食事を摂らなければ命が終わってしまいます。「大切な親だから、一日でも長く生きて欲しい。食事が認識できなくなったのなら、食べさせる介助をして欲しい。」大半の職員がこの意見に落ち着きました。この場合は例えば“食事を〇割以上食べていただくこと”が支援目標になってくるのでしょうか。

次に「では、もし認知症の進行から食事が認識できなくなったのが自分自身だったら、どう支援して欲しいか。」について話し合いました。ここでは結果が全く変わりました。「食事が認識できなくなったということは認知症は重度。きっとそれ以外のこともわからなくなっている。意思表示も上手にできない。その状態なら『食べたいときに食べたい

各拠点からのお知らせ

たのくび

拠点
(彦島田の首町)



だけ食べるから、その環境を整えてくれれば、あとは自分の気持ちに任せて過ごさせて欲しい。』」多様な意見があるでしょう。ケースバイケースでもあります。正解は一つではありません。そしてこれを実際にチームで支援することの難しさ、ジレンマ、覚悟などいろいろなことを考えます。

認知症になってもその人らしさ・意思決定を尊重する支援。気付いたらそのことに全職員で向き合い、日々葛藤し続ける、そんな職員が働くグループホームがアイユウの苑グループホームです。

アイユウの苑グループホーム
管理者 江藤文彦



各拠点からのお知らせ

しおはま

拠点
(彦島塩浜町)

しおはまフラワーガーデン

アイユウの苑しおはまには、いくつかの庭園があり季節ごとにさまざまな花が咲きます。約8年前の開設当時は石だらけで何もなかった場所も手入れをして年々花や植木などが増えていきました。現在の庭園の姿になったのは、地域のボランティア様の協力があります。ボランティア様が定期的に庭園の手入れをしてくださったり、ご自宅で育てた花や球根を持ってきて植えてくださいました。

今ではチューリップや菜の花、椿や百合、水仙などのさまざまな花々が咲きます。特に紫陽花は見ごたえがあり、

ご利用者様やご家族様からも好評です。コロナ禍で以前のように外出が難しいですが、季節ごとに施設内でお花見ができるのでご利用者様たちも大変喜ばれています。私たち職員もご利用者様たちと一緒に庭園を観に散歩したり、花を見ながら談笑を楽しんでいます。草取りや剪定など大変なこともあります。皆で協力しあいながらこれからも「しおはまフラワーガーデン」を華やかに維持していきたいと思えます。

地域密着型介護老人福祉施設
アイユウの苑しおはま
生活相談員 山本菜生子



各拠点からのお知らせ

ゆめ タウン

拠点
(長府ゆめタウン)

いつ発生するか分からない 自然災害に備えて

地震や津波といった自然災害は、ある時急に私たちの生活に脅威を与えます。これまでも阪神淡路大震災や東日本大震災など、想像をはるかに超える災害も発生しており、多くの方が被災されています。また、これから30年以内に70～80%の確率で南海トラフ地震が起こるとも言われています。

どうすることもできない現実に恐怖や焦りを感じてしまいますが、今後起こる災害に備えるために、まずは私たち一人ひとりが災害について学び、発生した場合にどう対応するか考えておく必要があります。

令和3年度介護報酬改定により、すべての介護保険事業所に、自然災害や感染症など、緊急時にご利用者様と職員を守るための事業継続計画(BCP*)の策定が義務付けられました。

当苑では、地震などの自然災害を想定した避難訓練を年2回実施すると共に、災害に関する勉強会や非常食提供訓練を実施しています。避難訓練については、ご利用者様や職員の安全確認や避難ルートの確保、車椅子使用者

や怪我人の搬送、情報収集や職員間の連絡対応など、実際の発生状況を想定しながら取り組んでいます。勉強会では、災害に関する講義のみでなく、グループワークで災害発生時の行動について意見交換などを行っており、“職員全員で考え、行動できる環境”を目指しています。

これらの取り組みを継続的に行うことで、緊急時に少しでも冷静な状況判断が行えるよう努めたいと思います。

*BCP:Business Continuity Planの略



地域密着型介護老人福祉施設
アイユウの苑ゆめタウン
生活相談員 河崎 亮



コロナ禍3回目の卒園式

過去2回の卒園式は、園児1名につき保護者1名の参加で開催していましたが、今までのコロナ禍の行事を通して試行錯誤してきた経験から、今年度は園児1名につき保護者2名の参加を計画しました。そうした中で子ども達は、1年生になるのを心待ちにしながら、卒園式の練習では、素敵な声が聞こえてきていました。

しかし、直前に新型コロナウイルスの第6波が到来し、苦渋の決断で保護者1名の参加に変更することとなりました。ただ、卒園式は特別な行事です。卒園式直前まで、なんとか工夫して2名参加でできないものかと検討を続けてきた結果、卒園式を一部と二部に分け、一部は1名参加で遊戯室での証書授与、二部は2名参加で、園庭に面したテラスで歌や言葉を披露することにしました。直前で決まったものの、子ども達は戸惑うこともなく練習をすすめ、当日を迎えました。



各拠点からのお知らせ

しおかぜ

拠点
(彦島迫町)

当日はあいにくの雨で少し肌寒い中でしたが、晴姿をたくさんの方々の保護者の方々にお祝いしていただき、年長さん25名を見送ることができ、私たちが嬉しい気持ちでいっぱいです。まだまだ新型コロナウイルスが収束することのない状況ではありますが、これからもよりよい保育や行事などが行えるよう職員一同工夫しながら頑張っていきたいと心新たにした一日となりました。

しおかぜの里こども園
保育教諭 伊藤 洋子






 じおかぜの里こども園
 栄養士 小林 祐子
 平成26年度入職 栄養士

こども園の栄養士として伸ばしていきたい能力は、食に関する知識、調理の技術、発信力などたくさんありますが、この2年問われてきたのは「柔軟な思考」です。

コロナ禍で何もかも例年通りにはいかず悲観的になる自分とは対照的に、新しいルールにもすぐに順応し、その中で全力で遊ぶ子ども達。その柔軟で前向きな姿に勇気をもらいました。

園としても子ども達が考えた、お店屋さんごっこやパレードなど遊びを楽しく盛り上げてイベントにしたり、保護者のためにZOOMでの保育参観を行ったりと工夫を凝らしてきました。

制限下でも諦めないその先に進化がある。園の姿を見てそう感じ、私も変化を受け入れ、ベストな方法を模索し挑戦し続けることができる人間でありたいと思いました。

今、回答を迫られている「職員意識調査(78問)」。意識もデータ化し、調査もスマホで行うICT化もまた最近の変化です。この果てしないスクロールの先にこども園の明るい未来

があるに違いないと「柔軟な思考」をもって臨む次第です。



松 | 美 | 会 | の | 人 | 財

私たちが働いています!

今回のテーマは...

今、伸ばしていきたい能力




 地域密着型介護老人福祉施設
 アイユウの苑ゆめタウン
 介護職員 矢次 英明
 平成29年度入職 介護福祉士

私がアイユウの苑ゆめタウンで働きはじめてもうすぐ5年が経ちます。以前は全く違う仕事をしており、介護の知識がない私にとって、入職当初は不安で一杯でしたが、職場の先輩やご利用者様の笑顔に支えられ、今ではユニットリーダーとして現場を任せられるようになりました。

私が思う介護の現場で大切なものは、『コミュニケーション能力』だと思っています。ご利用者様とコミュニケーションを取る時は、同じ目線で話しを聞き、声の大きさやトーンに気を付けながら、ご利用者様に安心して接して頂けるように心掛けています。

また、時にはリーダーとして、物事を判断し、決定しなければならないこともあります。そういった時は、自分の意見を押し付けず、周りの意見を尊重して、耳を傾けなければなりません。そのためには、職場の仲間と日頃からしっかりとコミュニケーションを取り、お互いが意見を言い合える関係性を築いていくことが大切だと思っています。

私自身、まだまだ未熟な所も多いですが、『話す』『聞く』力を伸ばし、職場のチームワーク向上、ご利用者様へのより良いケアへ繋げられるよう努力したいと思います。




 アイユウの苑
 ホームヘルプサービス
 サービス提供責任者 山崎 結花
 令和元年度入職 介護福祉士

アイユウの苑に入職して3年目に入りました。これまでに15年以上様々な介護現場で働かせて頂きましたが、一つひとつの経験が自分自身の財産となっています。

訪問介護はケアマネジャーが作成したケアプランに基づいた計画に従って、サービスを行っていくものですが、ご利用者様を一元的に捉えるのではなく、自立支援を目的とした広い視野で物事を考えていけるような能力を伸ばしていきたいです。細かいところでは、人と人との関わり合いの中、考え方や生き方が様々であるようにご利用者様個人を尊重し、何を望んでおられるのか、不安や心配事などはないか相手の立場に立ってサポートしていけるようになりたいです。

昨年は自分自身が腰を痛めてしまい、サービスを調整してもらうなど多大な迷惑をかけてしまいました。自分の体調管理もきっちりと行い、健康で心の余裕がある状態を保たないと良いケアができないことを痛感しました。自分自身のケアも怠らないように気をつけながら、ご利用者様の日常の些細なことにも共感していけるように意識して努めていきます。




 特別養護老人ホーム
 アイユウの苑
 看護職員 兒玉 奈々絵
 平成29年度入職 看護師

私が特養に勤め、今年で6年目に入ります。ご利用者様と日々関わる中で、「今伸ばしていきたい能力」は、ニーズをとらえる力です。その時々であったり、長期的なものであったり、ご利用者様がどのようなことを求めているかを観察し、提供することで満足していただきたいと考えるからです。

看護師としてニーズをとらえる力は基礎的なことですが、特養のご利用者様は高齢で、複数の疾患をかかえている方がほとんどであり、自らの体調不良を訴えることが困難です。そのため、今までの生活習慣や、これまでどのように過ごされて来られたかを、ご家族からの情報を元に、しっかり把握することが大切です。

また、多職種と意見交換をおこなうことも重要となってきます。それらを把握した上で、日々の関りから信頼関係を築き、スムーズなコミュニケーションをはかることで、その方のニーズを察知する。それが、ニーズをとらえる力だと考えます。最期までその人らしい生活を送れるように支援していきたいと思っています。

まだまだ至らない点は沢山ありますが、これからも精進を重ねていきたいと思っています。



自宅でできる 介護食のススメ (その8)

栄養管理・食事サービス部
主任管理栄養士 松宮 志真



介護する人が、上手な食べさせ方のコツを知ることで、安全においしく食事を食べてもらうことができます。今回は介護食から少し離れて、食事介助のコツをお伝えします。

1 食べ物を認識しづらくなってきている時

ある程度形のまま食べることができるなら料理はそのまま出し、目の前で魚をほぐしたり、箸で食べやすい大きさにして、献立や食材を伝えながら介助してみましょう。



2 食べる方のペースに合わせる

「ゴクン」と食べ物や水分を飲み込むと、「喉仏」が上がります。食事のペースはその日の体調によっても異なります。一口一口飲みこんだことを確認しながら介助しましょう。



3 声かけのタイミングに気をつけて

口に食べ物が入っている時には声をかけないようにします。慌てて返事をしようとして誤嚥することがあるからです。



4 目の高さを合わせる

介護する人が高い位置にいると、見上げてしまい、あごが上がって誤嚥しやすくなります。

目線が同じだと飲み込んだことも確認しやすく、さらに口の中に食事が残っていないかも見やすくなります。



5 料理と水分を交互に介助する

食事と水分(汁物、お茶、ゼリーなど)を交互に食べてもらうことによって、口の中に食べ物が残ることを防げます。また水分が適宜入ること、飲み込みやすくなります。



6 食事の時の姿勢

食事と姿勢は大切です。姿勢が崩れたまま介助すると誤嚥の危険性があります。車椅子、ベッドなど食事の環境は様々ですが、身体の角度や傾きに注意し、クッションなども活用してみましょう。



しょう び かい 会 社会福祉法人 松美会



◎アイユウの苑 迫(さこ)

〒750-0092 下関市彦島迫町三丁目17番2号

- 特別養護老人ホーム アイユウの苑(ショートステイ)
- アイユウの苑 デイサービスセンター
- アイユウの苑 サテライトデイサービスセンター六連島
- アイユウの苑 ホームヘルプサービス
- アイユウの苑 訪問入浴サービス
- アイユウの苑 訪問看護サービス
- アイユウの苑 ケアマネジメントセンター

Tel. 083-266-8287
Tel. 083-266-6364
Tel. 083-266-6364
Tel. 083-261-1372
Tel. 083-266-6364
Tel. 083-261-4337
Tel. 083-266-6501

◎アイユウの苑 田の首(たのくび)

〒750-0085 下関市彦島田の首町一丁目1番32号

- アイユウの苑 グループホーム
- アイユウの苑 デイサービスセンターしおはま

Tel. 083-266-5361
Tel. 083-266-5362

◎アイユウの苑 塩浜(しおはま)

〒750-0086 下関市彦島塩浜町三丁目14番47号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑しおはま
- 小規模多機能型居宅介護 アイユウの苑しおはま
- 住宅型有料老人ホーム アイユウの苑しおはま

Tel. 083-267-8800
Tel. 083-267-2525
Tel. 083-267-2525

◎アイユウの苑 ゆめタウン

〒752-0926 下関市長府ゆめタウン2番24号

- 地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑ゆめタウン
- アイユウの苑ゆめタウン ショートステイ

Tel. 083-249-2200
Tel. 083-249-2200

◎しおかぜの里

〒750-0092 下関市彦島迫町六丁目7番22号

- しおかぜの里こども園

Tel. 083-267-1917



社会福祉法人 松美会 アイユウの苑は「社会福祉法人」「特別養護老人ホーム」として、日本で初めて1999年10月に品質マネジメントシステムISO9001の認証取得を実現しました。さらに2022年2月に労働安全衛生のマネジメントシステムISO45001の認証取得を実現し、2つのマネジメントシステムの維持・継続的改善を推進しています。